

ゴールデンカムイ あらすじとネタバレと感想

○あらすじ

時は日露戦争。陸軍第一師団の杉元は銃撃を受けても銃剣で刺されても死なない「不死身の杉元」と恐れられ鬼神のごとき闘いを見せ戦争を生き残ります。

終戦後、気に入らない上司をぶん殴った事で、英雄の座から転落。ある理由で大金が必要なため、砂金が豊富にあると言われる北海道を訪れます。しかしすでに乱獲され砂金が手に入らない所を、ある酔っ払いに「アイヌ民族が大量の金塊を手にした。しかしある男（通称のっぺら坊）にアイヌ民族が全員殺され金塊は北海道のどこかに埋蔵された。男は掴まり網走監獄に収監。金塊の有かは死刑囚 24 人の身体に刺青として記した。脱走した元死刑囚 24 人を集めれば金塊の場所がわかる」と教えられます。酔っ払いの与太話と信用しなかった杉元ですが、その男が熊に襲われ死亡している所を発見、死体の上半身に不思議な刺青があった事から話が真実である事を確信します。

男の死体を背負って他の脱獄囚 23 人を探す杉元ですが、今度は自分が熊に襲われます。寸での所でアイヌ民族の少女、アシリバに助けられます。アシリバは父親を含む多くのアイヌ民族が、のっぺら坊に殺された事を恨んでいます。金塊の事をアシリバに話す杉元。金塊が発見されれば、のっぺら坊は不要となり死刑が執行される、つまり金塊の発見がアシリバにとって復讐になる事を話し、協力を要請、アシリバも同意します。

一緒に旅をする二人に脱獄囚で脱獄王の白石等が襲い掛かりますが、二人に返り討ちにされ、後に旅を共にします。

金塊を狙うのは杉元だけではありません。戦争の第一線で活躍したにも関わらず辛酸を舐めさせられている兵隊たちとその家族達にしっかりした生活を与え、いずれ陸軍を乗り取りアヘン栽培で雇用を増やす事を企む陸軍最強の第七師団中尉の鶴見。戊辰戦争で死亡したとされていたが実は生き残って政治犯として逮捕、網走監獄に幽閉されていた元新選組・鬼の副長土方は尊王攘夷の実行をもくろみます。鶴見は第7師団を率い、土方は同じ元新選組の永倉と同じ脱獄囚の牛島と手を組み、共に野望のため金塊を狙います。

杉元・アシリバ、鶴見中尉、土方の三つ巴の争いにより、北海道は再び戦場となっていくのでした。

○ネタバレと感想

バトルシーンは非常に迫力があり、見どころ満載です。ただ残酷な描写も多々あるので苦手な方は注意が必要です。私は原作漫画は読んでいませんが、パンフレットに載っている絵を見る限り再現度は半端なく高いように見受けられました。実際に原作を読んで映画を観た方々の感想を見ても再現度に関して文句ない様子です。

原作漫画は昨年完結しているようですが、実に8年の連載漫画だったそうで、それだけ長大な物語が、わずか2時間で完結する訳もなく、途中で終了となるのは想定内でしたから、

ラストには全く不満はなく、むしろ続編に期待したい所です。

一つだけ不満を言うとなると、杉元がそこまでして金塊（大金）を得ようとする理由が、ラストシーンでようやく明かされた事でした。その理由とは…。杉元には寅次と梅子という二人の幼馴染がいました。杉元と梅子は互いに惹かれ合っていました。しかし杉元の家族が3人連続で肺の病で死亡、村人は感染を恐れて一人残された杉元を村八分にします。杉元は自ら自宅に火を放ち村を去ろうとします。引き留める梅子に「1年経って発症しなければ戻る」と言い残し一人村を後にします。1年後（と思われる）発症しなかった杉元は村に戻ってきますが、そこで寅次と梅子の結婚式を目の当たりにします。杉元を発見した寅次は「何故帰ってきた？梅子は俺の嫁だ。」と激昂するも本心は元気な杉元との再会を喜んでいようでした。

時は流れ日露戦争で同じ戦場に立つ杉元と寅次。杉元に爆弾を持って突進するロシア兵。寸での所で寅次が杉元を投げ飛ばし助けます。しかし寅次は爆発に巻き込まれ死亡します。死する直前「たくさんのお金を稼いで梅を良い医者に見せたい。梅の眼を治したい」と希望を告げます。つまり杉元は無くなった幼馴染の希望を叶えるために大金が必要だったのです。

ラストシーンまでこのエピソードを引っ張った理由はわかりません。含みを持たせる方が面白いとの判断だったかもしれませんが、ラストを盛り上げる、次回作への期待を高めさせる狙いもあったかもしれません。しかしあまりに焦らされると間延びする事も事実です。物語終盤、第7師団に囚われた杉元が脱出する戦闘シーンがあります。馬車上のこの闘いのシーンは迫力満点でまさに鬼気迫るものがあります。少なくともこのシーンの前には臆気ながらも杉元の戦う（大金を得たい）理由がほしかった所です。

アシリバが住む集落に泊まるシーンがあります。その時アシリバの大叔父よりあの金塊は呪われているから諦めろと諭されます。杉元はこれ以上アイヌの人々に迷惑をかけない為にアシリバを置いて、しかしそれでも金塊を得るため一人明け方そっと集落を後にします。大叔父との会話のシーンで、全てを描写しなくても良いので、ほんのワンカットでも理由に触れる描写が欲しかったです。例えば寅次が無くなるシーンを見せて「梅の病を治すために大金いる」と語る寅次を描けばその時は「え？梅って誰？」「何かの病気なの？」と疑問に思いますが、少なくとも亡き戦友の希望を叶えるために杉元は戦っているという理由がわかります。こうすれば詳しいエピソードは伏線として残してもすっきりするでしょう。杉元という人物を見ていると、決して大金に目がくらみ、私利私欲に走るような男でないのはよくわかります。しかしそこに理由が追加された方がより感情移入できたのかとも思います。このような手法は「ルパン三世ーワルサーP38ー」でも使用された手法です。ルパンはタランチュラという暗殺組織の金塊目的にアジトに乗り込むという設定ですが、実はかつてルパンを裏切り殺害しようとした男がタランチュラに潜んでいる事を知ったルパンは復讐のために乗り込んだのです。詳しい裏切られ方は、物語のラストに明かされますが、中盤でヒロインのエレンに「本当の理由を言え」と迫られたルパンが「(エレンに対し) 忌まわしい過去にずっと囚われて生きるのかい？俺は過去にケリをつけるために来た」と告げます。詳し

い内容は不明でも、このセリフでルパンほどの人物が、かなりの覚悟で乗り込んで来た事がわかり、より感情移入しやすくなります。

もちろんこれは私の超個人的な感想なので今回の手法の方が良いという方も沢山いるでしょうし、その意見を否定もしません。映画に限らず作品は色んな楽しみ方がありますから。

ただ…一回しか観ていないので、早々に理由に関する伏線のシーンがあつて私が見落とししていた可能性もありますので、その際はごめんなさい。集中して観ていたつもりですが、2時間を超える映画だったので…

文句を言っているように聞こえるかもしれませんが、内容としてはバトルシーンの迫力や原作漫画の再現度、また杉元、アシリパ、後に白石との掛け合いでは笑処も多々あり、完成度は非常に高く、満足のいく映画です。私のように原作を読んでいない者でも置いてけぼりになる事もなく、しっかりストーリーを楽しめます。現段階ですでに興行収入 16 億円を超える大ヒットなので、十分続編に期待が出来ます。原作で言うとまだ序盤ぐらいの内容と聞いていますので、この先何部作になるか想像もつきませんが、ぜひ完結まで映画化してほしい所です。

やっぱり昨年から邦画に魅せられているなあと思ったりしながら…

追記：本記事は2月中旬に書いたのですが、現時点で興行収入が 25.8 億円を突破。しかも本日のニュースで続編が WOWOW で放送される事が発表されました。

映画じゃないのか…